



仮想島根大学の構築と利活用に係る基礎研究 ～VRによる最寄りのAEDへのリアルタイム経路表示～

総合情報処理センター 准教授 石原 由紀夫

私たちの研究グループは、島根大学松江キャンパスを仮想空間に再現する、デジタルツイン「仮想島根大学」の構築を進めています。この仮想空間は、学生や職員の教育・研究活動を支援し、地域社会への貢献を促進するための役割を果たすことを目指しています。一般的に仮想空間での活動では、単に歩行するだけでも現実とは異なる感覚を伴い、3D酔いや方向感覚の喪失などの問題が生じます。ユーザが予測する事象と実際に発生する事象との間に存在する差異が原因であり、これらを明らかにしながら仮想島根大学を発展させています。

この活動の取り組みの一つとして、最寄りのAED（自動体外式除細動器）への最短経路を表示するアプリの開発に取り組んでいます。AEDは各所に設置されていますが、その正確な位置の認知度は依然として低く、有事の際のパニック下において、AEDに迅速に辿りつくことは容易ではありません。一方で、救急救命においては「5分以内」の確実なAED利用が救命率を左右する不可欠な要素です。このギャップを埋めるため、VR（仮想空間技術）とGPSを統合し、自身の位置から最寄りのAEDまでの最短経路を画面上の誘導線で可視化しリアルタイムに提示するアプリを作成してその有効性を示しています。

